

Paddy and Water Environment 誌の現状と活性化方策
Trials for the Improvement of Paddy and Water Environment

中野芳輔*
NAKANO Yoshisuke*

1. はじめに

2003年1月にPWE誌の出版がスタートして7年目を迎えた。PWEの知名度も漸次高まって来たが、国際誌としてさらに発展させるためにはまだ問題点も残されている。事務局ではPWEの活性化に向けて、ISI(Institute for Scientific Information Inc.)データベースへの登録申請、査読システムの改善、宣伝活動等を行ってきた。これらの状況を説明し今後の改善方針についてまとめてみた。

2. ISIデータベースへの登録申請

国際誌として認知されるためにはISIへの登録と、Impact Factor(IF)の取得が求められている。とくに韓国や台湾の研究者にはIFの必要性が高く、PWEのISI登録の有無について事務局に問い合わせが来ることもある。PWE事務局では2006年12月に出版元のSpringer社との連携のもとにISIへの申請を行い、現在、判定待ちの状態にある。他誌の例によれば、早い場合は申請から2年を待たずに回答が来ているので、PWE誌への回答の遅れが気になるところである。

個々のジャーナルは、綿密な評価プロセスを経てから、収録の可否が決定される。ジャーナルの評価では、定性評価から定量評価に至るまで、さまざまな要素が考慮される。ジャーナルの基本的な発行基準、編集の内容、著者の国際性、引用データなど複数の要素を組み合わせることで相互関係を検証することにより、ジャーナルの長所と短所が特定される。定量的な評価指標として、IF(文献引用影響率:ジャーナルに掲載された論文が対象年中にどれだけ引用されたかを示す尺度)、Total Cites(被引用総数:ジャーナルに掲載された論文が、対象の1年間に他の文献に引用された総数)、Immediacy Index(最新文献指数:対象年中にどれだけ引用されたかを示す尺度)、Cited Half-Life(被引用半減期:ジャーナルに掲載された論文が、どれだけ長い間引用され続けるかを示す)、Citing Half-Life(引用半減期:ジャーナルに掲載された論文が、どれだけ古い論文まで引用しているかを示す)、Articles(論文数:ジャーナルに一年間に掲載された論文の総数)等が登録の判断に利用されている。またジャーナルが定められた期日どおりに発行されているかどうかは、評価プロセスにおける基本的な評価基準の1つであり、最も重要であるとされる。ISIデータベースに登録する際には、まず、対象となるジャーナルが規定の発行頻度で実際に出版されているかどうかを調べる。定期的な出版期日が厳守されていれば、出版の存続に十分な原稿量がストックされていることがうかがわれる。PWE誌では申請後Vol.4,No.4(2006年12月)からVol.7,No.2(2009年6月)までの計11誌について定期刊行を行ってきた。

一方、ISIでは2008年に新たな視点から選別した地域ジャーナル700誌を追加した。ローカルな視点から問題にアプローチしたり、地域的な関心を集めているトピックスに焦点を当てたりすることで、国際的な読者層よりも地域的な読者層を主な対象にする雑誌を選別している。ここでは被引用数からみたインパクトよりも内容の特殊性を評価している。PWE誌は水田農業という地域性、特殊性も有しており、ISIによる新たな視点からの評価を期待している。

* 九州大学名誉教授 Emeritus Professor, Kyushu University

3. その他のデータベースへの登録

Elsevier社のデータベース「Scopus」は、世界の4,000以上の出版社から出版される16,000以上の科学・技術・医学・社会科学のタイトルを網羅する世界最大級の書誌・引用文献データベースのひとつである。Scopusの抄録は最も古いものは1800年代まで遡り、1996年以降に出版された論文にはすべて参考文献が付いている。そのため、幅広い論文の間の引用リンクが可能である。Scopusのコンテンツ・マネージャーは、最もクオリティの高い科学文献が網羅されているように、常に重要なリソースを探していると言われている。このため韓国ではScopusデータベースに掲載された科学誌はISIデータベースへの登録誌と同様の高い評価を受けると聞いている。**PWE誌がこのScopusに登録されたことは明るいニュースである。**

4. 評価を高めるための対策

PWEにおけるレビュー論文の掲載はIF値のアップに向けて効果的と言える。一般に、根拠となった原著論文を丹念に引用するとなると引用論文数が増えるため、それら原著論文を網羅的に引用しているレビュー論文1つを引用することで一括代用しようとする傾向がある。今後Editorial PanelメンバーやPWE日本委員会の協力をいただき、レビュー論文の著者を開拓したい。また、農業農村工学会員の皆様には、ISIに登録されている雑誌、「Agricultural Water Management, Hydrological Processes, Plant and Soil, Irrigation and Drainage, Irrigation Science, Soil Science Society of American Journal, Journal of Hydrology, Journal of Irrigation and Drainage Engineering(ASCE), Soil Science, Transaction of the AEAE」等に投稿される場合は、PWE誌に掲載された論文を積極的に引用することもお願いしたい。

5. 査読システムの改善

PWE事務局はこれまで韓国にあったが2009年1月から台湾に移行し、現在台湾大学のDr. Yu-Pin Linに投稿、査読等の窓口となっていただいている。こうした国際的な連携の中で査読を円滑に進めて行くことが求められている。これまでも、査読の遅れを回避する手段としてOn-line査読システムの導入について、購読者の方々からご助言をいただいていたが、2008年からSpringer社が提供するEditorial Manager という査読システムを導入した。利点として、査読のやりとりが容易になり時間が短縮される、Editor-in-ChiefやManaging Editorが論文の状況を逐次把握できる、年間の投稿数、投稿待ち原稿数などの統計データが提供される、査読時間などの改善が図られ投稿数が増える、などが期待できる。現在投稿者には<https://www.editorialmanager.com/pawe>に接続し、online submission で入力をお願いしている。

6. 宣伝活動

事務局では国際会議の開催に合わせてPWE冊子の配布を行ってきた。これまで、国際水田農業学会(イタリア)、世界水フォーラム(メキシコ)、国際米会議(イタリア)、ICID(クアラルンプール)などで冊子を配布してきた。こうした活動の成果は不明であるが、PWEの知名度の向上に役立っているものと期待したい。

参考文献

1. 堀切近史(2008)インパクトファクターと雑誌選定のプロセス、トムソン・ロイター・グループ
2. 宮入陽子(2008)、JCRの新しい指標、地域ジャーナルの収録拡大とその意義、トムソン・ロイター・グループ